

三二縦走 万六ノ頭～連行峰～大蔵里山～醍醐丸

報告：T. F.

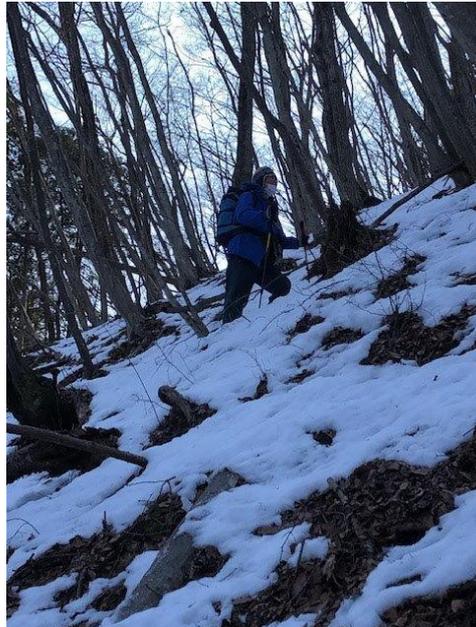
◎期日：2022年2月27日 ◎メンバー：T. F. (L)、M. S.

JR 武蔵五日市駅前発の数馬行き、07:10 発のバスは、満席で発車した。柏木野で下車したのは我々二人。バス停のすぐ先に「連行峰」への案内表示があり、案内通りに階段を降りて、鉄板の橋で南秋川を渡ると山道となった。

万六尾根に向かって黙々と歩む。ジグザクを切って高度を上げて行くと、やがて雪のトラバースの箇所が出てきた。スリップすると落ちてしまうので、用心して軽アイゼンを着けたが、凍結していなかったので通過後すぐに外した。静かな雪交じりの道が延々と続くが、万六ノ頭への分岐はまだかまだかと思いつつ歩を進め、ひょっとしてもう通過してしまったかと思った頃、連行峰と柏木野を示す案内標柱に到着した。標柱には「南 34」とあったが、万六ノ頭を差し示すものはなかったが、標柱の後ろに上に向かう薄い踏み跡があり、これだろうと思って登って行くと、二つ目の高みが万六ノ頭であった。

立木に「万六ノ頭・883m」と書かれた古い看板が付けてあり、残雪の静かな樹林に囲まれ、深山の雰囲気でもとても気持ちの良いよいピークである。これで気になっていたピークがひとつクリア出来た。

(左)
スタートして暫くで雪混じりのジグザグ道となった。



(右)
「南 34」の案内標柱が万六ノ頭への分岐で、後ろの踏み跡を歩く。



(左)
万六ノ頭のピークの表示。古くて「万」が欠けていた。



(右)
万六ノ頭のピーク付近の樹林。



かなり昔、湯場の沢本流をひとりで溯行した時、最後は詰め上げて万六尾根に出た。そして延々と柏木野へ下ったが、万六ノ頭は登山道のメインルートから少し外れているので、踏んで来なかった。なにせ車を小坂志川林道に駐車していたので、これを回収しに行かなくてはならず、余裕がなかった。以降、機会がないままになっていた。

分岐まで戻り、改めて連行峰を目指して歩を進めた。こんなにアップダウンがあったかと思うほどであった。加齢とともに膝など関節の不調や体力の低下もあり、なかなかキツイ。しかしSさんは不思議なことに加齢とともに健脚になってきたのか、元気に先を行く。

高度が上がると残雪は10cm程となり、ほんの少し雪山の気分を味わうことが出来、きついながらも楽しかった。やがて「連行峰(1,016m)」に到着。標柱には地図とは違って「連行山」と記されていた。

柏木野から連行峰まで5kmを約4時間もかかって登ってきたが、地図のコースタイムは2:30。行程の半分は雪道、万六ノ頭に寄った、などがあるにしてもちよっとかかりすぎかな?と思ったが、まあ不調の後期高齢者、・・・こんなものかと思うことにした。

山頂にはベンチがいくつかあったが、風が当たりちよっと寒いので、少し先に行ってランチタイムとした。

意外と大きく見える富士山や山並みを眺めながらのカップ麺とおにぎりは、いつもより美味しかった。

食後は眺望を愛でながらの笹尾根の縦走となった。この笹尾根は、東京都と神奈川県の間だが、北側の東京都檜原村側の斜面は雪が残っていて真っ白。一方、南側の神奈川県相模原市側の斜面は残雪は見えず、土であった。自然の摂理であろうが、同時に見比べられるのが分水嶺の面白いところと思う。

鞍部に着いたと思ったら「山ノ神」であった。本日のエスケープルートはここから和田・陣馬登山口へ下山することになっていたが、二人とも元気なので、写真を撮っただけですぐに登り返して進んだ。少し雪が残っている箇所もあり、足元に注意していたところ、「大蔵里山(837m)」の山頂は気づかずに通過してしまった。山頂標柱は無かったと思う。帰宅してから調べると、表示は立木に付けてあったらしい。

ともかく醍醐丸を目指して歩を進めた。アップダウンを繰り返して、ようやく「醍醐丸(867m)」に到着した。樹林に囲まれた静かな山頂で、踏まれて固く薄く凍ったような残骸はあったが、積雪はなかった。醍醐丸は八王子市の最高峰。ここも気になっていたピークで、昔、登ったことがあるような、無いような、記憶が定かではなかった・・・しかし、これですっきりした。

後は和田峠を目指して下る。やがて和田峠に到着。一本立てたが、陣馬高原下のバスの時間まで45分しかない。一本逃すと1時間待ちとなる。Sさんが「どうしますか? バスには間に合わないと思いますが・・・」。峠の茶屋でゆっくり休憩する選択肢もあったが、「とにかく歩こう。行ってみよう」と小生。



(連行峰(連行山)の山頂)



(醍醐丸の山頂)

その結果、まるで競歩のような早歩きとなった。更に後半は「あと何分」、「あと何分」と、走ったりもした。その結果、発車の5分前に到着！！間に合ってホッとした。

しかし、舗装道路の下りを走ったりしたのは、痛めている膝関節などにはダメージが大きく、高尾駅のホームでは、痛みを引きずってのよちよち歩きとなってしまった。

<おおよそのコースタイム>

連行峰入口（登山口）	7 : 5 0
万六ノ頭分岐	9 : 5 5
万六の頭（883m）	1 0 : 0 5 ~ 1 0 : 1 0
万六の頭分岐	1 0 : 2 0 ?
連行峰（1,016m）	1 1 : 4 5 ~ 1 2 : 1 5（昼食）
山の神	1 2 : 4 5
大蔵里山（837m）	1 2 : 5 0 ?（気づかず通過）
醍醐丸（867m）	1 3 : 3 0 ~ 4 5
和田峠	1 4 : 3 5 ~ 4 0
陣馬高原下	1 5 : 2 0

（了）